

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市民生活部		
	課名	防災安全課		
	係名	交通防犯係		
	記入者		電話(内線)	281

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称		施設管理経費(交通安全施設)				(3) 事業の 優先度		B		
(4) 総合計画での位置づけ						(6) 事業主体			市					
① 事業の区分		主要事業						(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質		一般事業費(ソフト事業)		
② 施策コード		24303		(総合計画掲載ページ 84 ページ)		会計区分				一般会計				
基本目標(政策)		2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)				財源区分				市単独				
基本施策		2-4安全に暮らせる安心なまちづくり(防災・防犯・安全)				予算科目				款 2 項 7 目 2				
施策		③交通安全対策の推進				予算書上の				施設管理経費				
施策内容		3街路灯の設置				事業名称				(予算書 65 ページに掲載)				
(5) 事業期間		開始				年		月から		(8) 事務分類				
		終了				年		月まで (力年)		自治事務				
								根拠法令						

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象（だれに対して・何に対して行うのか）	(3) めざす姿（意図・どのような状態になるのか）
児童・生徒	
(2) 手段（事業内容・どのようなことを行うのか）	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など （※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし）
通学路の安全確保の一環として、街路灯の維持管理を行う。	
(5) 事業をとりまく環境の変化（社会環境、市民ニーズ等）や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
児童・生徒に対する不審者情報等が増えてきている。また通学時の安全確保の為に、街路灯設置の要望が増えているが、予算的な問題もあり、予算の拡充が必要である。	民家や照明等のない暗い通学路に対し、街路灯を設置することで、児童生徒の通学時の交通安全、防犯対策を図る。
	通学路の安全確保のため、街路灯設置の要望により実施。

3. 事業コスト

行政評価 実施計画		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
● 予算内訳		実績額(千円)	当初予算額(千円)	計画額・見込額(千円)			
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	事業費						
	需用費	7,545	8,828				
	使用料及び賃借料	48	48				
	合計	7,593	8,876				
	財源						
	国庫支出金(千円)						
財源	県支出金(千円)						
	地方債(千円)						
	その他特定財源(千円)						
	一般財源(千円)	7,593	8,876				
	合計(千円)	7,593	8,876				
補助・起債制度名							

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	既設街路灯のLED化	目標値	基		80	95	110	125	
		実績(見込)値		65	80				
		目標値							
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	電気料	目標値	千円		6,840	6,840	6,840	6,840	
		実績(見込)値		5,770	6,840	6,840	6,840	6,840	
		達成率		84.4 %	100.0 %				
	修繕料	目標値	千円		1,939	2,000	2,000	2,000	
		実績(見込)値		1,757	1,939	2,000	2,000	2,000	
		達成率		87.9 %	97.0 %				
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	経費削減の意味でも必要性は高い。					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	市で対応すべきである。					
	手段の妥当性	A	妥当である	手段としては一般的である。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	経費は必要である。					
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	設置個所は市内全域が対象であるが、経費の関係で一部しか対応できない。					
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	多少ではあるが経費削減につながっている。					
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	予算が限られているので、計画的な進捗は望めない。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
計画的にLED化を進めていきたいが、限られた予算の中での対応は難しい。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
今後計画的な対応を進めるうえで予算の拡充を図りたい。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			現在、通学路街路灯のほとんどが蛍光灯であるが、国の方針により平成32年度を目途にLED化を進めなくてはならず、維持管理経費削減の意味でも、今後も継続して実施する。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				